

岐阜大学  
地域科学部・地域科学研究科

Gifu University  
Faculty of Regional Studies

FOREST



# contents

■ 学部長からのメッセージ	1	
学 部	学部案内	2
	学科・コース紹介	3
	カリキュラムの概要	4
	授業科目一覧	5
	社会活動演習	6
	地域学実習	7
	専門セミナー	8
研 究 科	研究科案内	10
	専攻紹介	11
	カリキュラムの概要と授業科目一覧	12
■ 進学・就職	13	
■ 地域科学部の活動と成果	16	

地  
域  
科  
学  
部

～学部長からのメッセージ～

## 「目標が明確な人も、迷える人も大歓迎の学部です」

岐阜大学地域科学部は、1996年秋に全国初の地域系の学部として開学し、街おこしや地場産業や環境保全などを通じた地域発展に資する研究教育を一つの柱としています。同時に本学部では地域概念を、市境や県境や国境や既存の共同体的区切りなどを越えた圏域や道州論やEJやアジア共同体構想等々にも広がる概念として、更には従来の人文社会科学諸科学の革新にも繋がる概念として捉えて研究教育を行っています。加えて本学部の重要な柱として、国公立大学としては経済学部も法学部も文学部も社会学部も理学部も存在しない岐阜の大学事情にマッチした(また就職率も非常に良い)学部だ、ということがあります。

というのも本学部を構成するのは、文系のほぼ全分野から基礎的理系の多くの分野に至る多様な専門の研究者47人、しかも海外を含む様々な大学院を出て研鑽を続けてきた研究者47人だからです。そしてその全員が、豊かな研究成果を生かして少人数(一学年最大4人の学生)の専門セミナーを二年生後学期から卒業時まで開講し、多種多様な学生個人を大切に多種多様な教育を行っています。こうした本学部であればこそ、自らの専門や将来設計を定め難い学生も(今は相当数の青年達がそうでしょう)、入学後に主体的に自らの進路を新たに決めたり決め直したりしつつ多様な勉学をすることが出来ます。もちろんこうした本学部の屋台骨はまた、事務職員による熱心な学生支援が支えています。

また上記の専門セミナー以前の教養[初年次]セミナーや基礎セミナー、更には個々の教員研究室への自由な訪問なども、迷える学生達が迷うことの大切さも感得しながら自由に進路を確立していく上で大いに役立つはず。実際、こうした本学部の在り方に、卒業時アンケートでは80%を超える卒業生が大いに満足だと答えています。地域問題や人文社会科学や自然科学の個々の学問に関する勉学目標が明確な人も、また様々な点で目標が定め難い人も分け隔てなく大いに歓迎される、地域科学部とはそういう学部なのです。もっとも本学部も、学生自身に一定の真剣さや真摯さを求めているという点では、他大学や他学部と何ら変わるところはありませんが…。

なお本学部の上には、地域政策専攻と地域文化専攻からなる大学院の地域科学研究科(修士課程)があり、本学部のみならず他大学の卒業生や社会人も集まっています。ここでは、より高度な専門応用能力とより幅広い国際性の涵養を目指す教育・研究を通じて、高度専門職業人や研究者が育っています。

岐阜大学地域科学部長  
岐阜大学地域科学研究科長

竹内 章郎

FACULTY OF REGIONAL STUDIES  
FOREST  
GIFU UNIVERSITY

# 地域科学部

## Admission Policy

### アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

#### ■ 教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力を基にして総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的地域創成や豊かで持続可能な社会形成に貢献でき、かつ、リーダーシップを発揮できるプランナーの育成を目指します。

#### ■ 求める学生像

このような理念・目標を掲げた本学部の学生には、次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間・社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. さまざまな視点から総合的かつ論理的にものごとを考えることができる。
3. みずから課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を積極的に表現する能力を持っている。

## Curriculum Policy

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

学生一人ひとりの個性を重視し、学習への意欲を呼び起こし、自己の将来の展望に結びつく教育を行うことを通じて、自らの知性で考え行動できる人材を育成します。そのための教育方針として、文科系分野を主とする学生には理科系の知識をも、理科系分野を主とする学生には文科系の知識をも兼ね備えるよう強く指導し、幅広く社会で活躍できる基礎的知性を養成します。さらに、国際的な視野を養うため複数の外国語学習カリキュラムを通じて、ともしれば英語圏のみに限定されがちな外国文化への関心を、より多様な、さまざまな地域にも向けられるよう指導します。

## Diploma Policy

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得し、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を持つ者を育成し、社会に貢献します。

※抜粋(全文は本学部HPをご覧ください)

# 学科・コース紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすく平和で文化的な地域社会を創り出すことができる人材(具体的には自治体・企業・NPOなどで活躍する地域社会のリーダー・プランナーなど)の育成を目的とした、国立大学ではユニークな学部です。この学部は2学科6コース制をとり、学ぶ範囲は広くかつ多様です。軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。

21世紀はグローカリズム(グローバルな視野のもとで、地域社会のあり方を考え、地域社会の向上に取り組もうという考え方)の時代と言われています。グローカリズムの立場に立って、さまざまな知識を身につけましょう！



## 地域科学部

### 地域政策学科

おもに社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析、そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつ、より良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

### 地域文化学科

おもに人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、および歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し、把握する教育研究をおこない、人間社会に関する的確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

## 地域政策学科・地域文化学科

### 産業・まちづくりコース

地域の内発的発展と国民経済・リージョナリズム・グローバリゼーションとの実現可能な共存関係を追究するとともに、マクロ的な観点から都市と農村、商工業と金融、大企業と中小企業などの地域経済問題の解決を目指し、地域の経済基盤強化および政策立案の基礎となる専門的能力の育成・涵養を図ります。

### 自治政策コース

分権時代の自治体の意思決定システムの見直し、地域計画、福祉政策とそれを支える地方行財政政策など「公共性」の再編の必要性に対し、住民参加やNPOとの協同など、意志決定・実行のプロセスにおける新たな市民的コミュニケーション関係の構築とそれを促進すべき行政サイドの方策を研究・教育し、新しい自治の担い手を育成します。

### 環境政策コース

狭義の自然環境の研究・教育という旧来型スタイルを越え、人間・社会の持続的発展とセットになった環境の研究・教育を目指します。社会的環境と自然環境とを一体のものとして捉え、循環型社会の構築に必要な政策研究と教育にあたり、ユニークかつ総合的性格をもち環境保全に配慮した地域社会・地域産業構造の確立に有為な人材を育成します。

### 生活・社会コース

大きく変貌を遂げようとしている地域社会がどのような特性をもったコミュニティとして活力を取り戻していけばいいのか、現在のコミュニティとそれを取り巻く歴史的・文化的制度を含めた総合的・比較的研究を踏まえ、市民諸階層の有効なコミュニケーションの再構築と市民的基礎を有した「まちづくり」を担い手となる人材を育成します。

### 人間・文化コース

コミュニティは独自の文化を継承・発展させ、常に他の社会や文化に積極的に接触し、相互に啓発し合うことで活力を生み出すという視点にたつて、グローバリゼーションの時代に適合的な多様な文化特性の交流を通じた伝統文化の再生と新しい文化創造の可能性を研究・教育し、地域文化の創造的担い手を育成します。

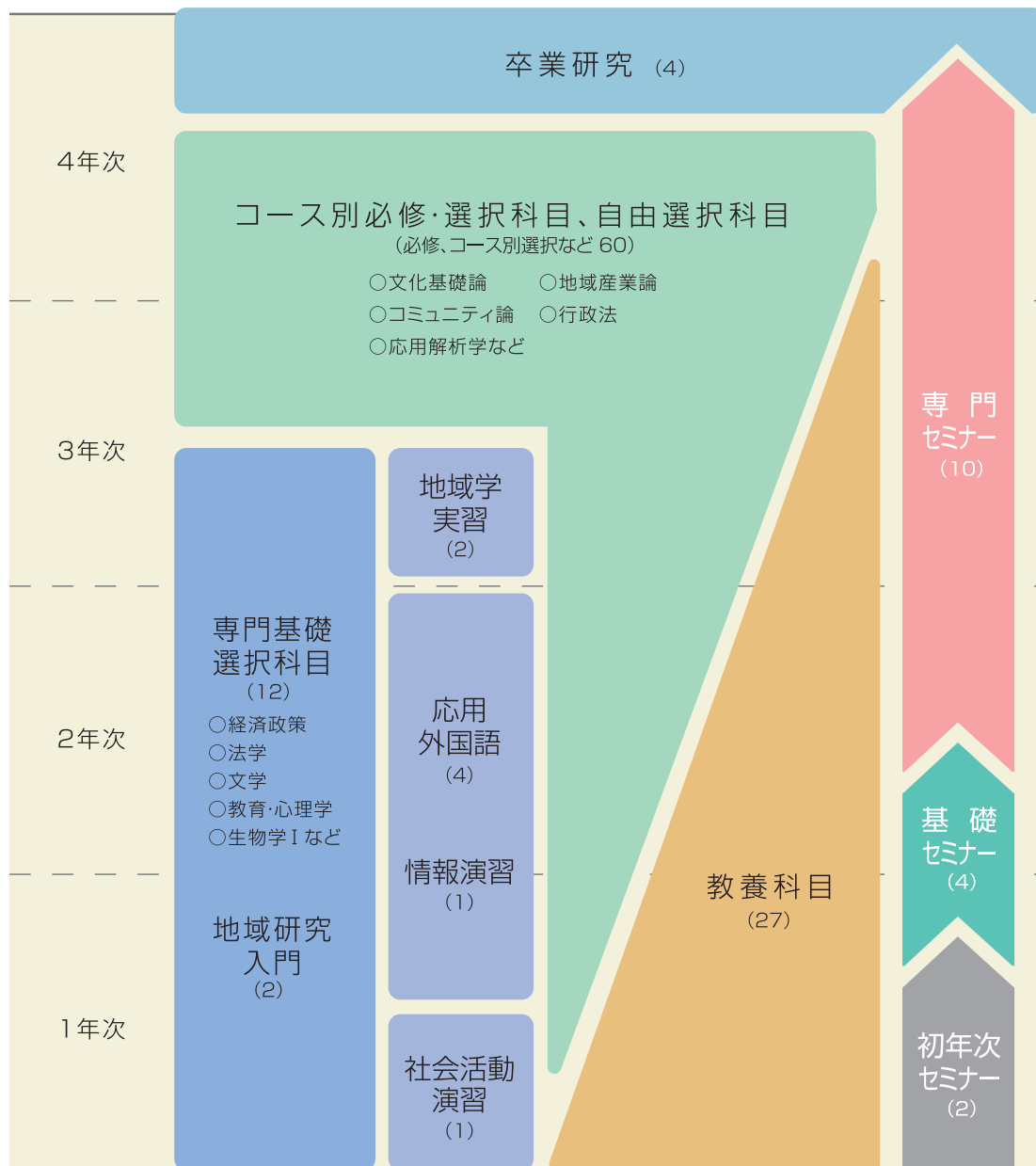
### 国際教養コース (平成28年度より開設)

グローバル社会において求められる幅広い教養と自文化・異文化への理解力を身につけるために、日本人学生については海外留学を必修とし、また外国人学生については集中的な学習によって日本語・日本文化への理解を深め、グローバルな学識を養います。

# カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができ一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実に即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

## 地域科学部でどんなふうに学ぶんだらう？



( )は卒業に必要な修得単位数

# 授業科目一覧

コース		産業・まちづくり	自治政策	環境政策	生活・社会	人間・文化	国際教養	
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養) 地域研究入門 社会活動演習 情報演習 応用外国語 基礎セミナー						英語(教養科目) 第2外国語(教養科目)
	選択	現代経済学 経済政策 地理学	法学 憲法 現代政治学	微分積分Ⅰ・Ⅱ 線形代数Ⅰ・Ⅱ 物理学Ⅰ 化学Ⅰ 生物学Ⅰ 記述統計学 推測統計学	教育・心理学 現代社会学 近・現代史	哲学 文学 言語学	グローバル化概論 憲法 物理学Ⅰ 哲学	
専門科目	コース別必修	計量経済学 経済地理学 日本経済論 地域経済論 社会政策論 地域解析学 地域づくり論	行政法 財政学 地域計画論 国土開発論 民法 社会政策論 社会哲学	都市環境工学 環境物理学Ⅰ 化学実験 物理学Ⅱ 生物学Ⅱ	地域社会学 社会調査法Ⅰ 社会調査法Ⅱ 地域史 社会福祉原論 メディア論 文化人類学	文化基礎論 社会哲学 言語文化論 社会言語学 日本文化論 アジア文化論 ヨーロッパ文化論	言語と社会入門 アメリカ文化論 化学実験 社会調査法Ⅰ 社会政策論 日本文化論 近・現代思想論 文化人類学 言語意味論	
	コース別選択	地域産業論 協同組合論 消費経済論 企業論 経営学 会計学 マーケティング論 金融論 国際経済論 比較経済体制論 労働経済学 労働社会学 公共経済学 環境経済学 政治経済学 地域自治論 地方財政論 地域計画論 交通計画論 地理情報システム論 地域振興論 農村振興論 社会資本論 国土開発論 財政学	企業法 刑法 裁判法 環境法 労働法 行政学 地方自治法 政治過程論 国際関係論 地方財政論 地域自治論 交通計画論 社会資本論 地理情報システム論 地域振興論 労働経済学 公共経済学 環境経済学 地域産業論 農村振興論 地域社会学 社会福祉原論 社会保障論 環境社会学 地域づくり論	応用解析学 数理計画法 自然科学のための数学 物理学Ⅲ 環境物理学Ⅱ 物理化学 化学演習 植物生態学 動物生態学 環境保全論Ⅰ 環境保全論Ⅱ 居住環境と心理 環境物理学Ⅲ 環境調査法 システム工学	人間発達論 生命倫理学 社会政策論 社会保障論 地域福祉論 生活福祉論 社会福祉援助技術総論 老人福祉論 障害者福祉論 児童福祉論 健康教育論 環境教育論 環境社会学 コミュニティ論 ジャーナリズム論 家族社会学 ジェンダー論 労働社会学 地域自治論 日本文化論 コミュニケーション論 文化思想史 文献学 博物館学	近・現代思想論 文化思想史 科学思想論 環境思想論 文化人類学 地域文化論 社会文化論 文化受容論 文化解釈論 表象文化論 境界文化論 文学批評論 環境社会学 コミュニケーション論 言語意味論 言語理解論 言語生活論 文献学 博物館学	日本経済論 地域産業論 国際経済論 比較経済体制論 地域計画論 民法 国際関係論 微分積分Ⅰ 線形代数Ⅰ 記述統計学 推測統計学 生物学Ⅰ 生物学Ⅱ 物理学Ⅱ 居住環境と心理 環境調査法 社会調査法Ⅱ メディア論 コミュニティ論 ジェンダー論 社会哲学 言語文化論 社会言語学 アジア文化論 ヨーロッパ文化論 文化受容論 境界文化論 言語理解論	
		地域学実習			専門セミナー	卒業研究		
その他の特色							海外留学プログラム(日本人学生) 日本文化研修コースプログラム(外国人学生)	

地域科学部

※国際教養コースの科目は変更になる可能性があります

# 社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜地域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の7つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休暇期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。

## 2015年度実施プログラム(指導担当教員)

- A: 裁判所・刑務所見学及びその成果発表(三谷 晋)
- B: 知的障がい者の授産施設：第二いぶき(竹内 章郎)
- C: 農業体験グループ(土岐 邦彦)
- D: 大学生が地域の「子育て支援」に参加する！(近藤 真庸)
- E: 子どもの自然体験教室のサポーター(稲生 勝)
- F: 岐阜市歴史博物館で作業する(加藤 公一)
- G: 名古屋証券取引所とIRエキスポ(三井 栄)



農業体験の様子



「子育て支援」イベントの様子

## 学生の声

2014年度入学 水野 利佳子さん

私は、「子どもの自然体験教室をサポートする」に参加しました。子どもの自然体験教室は毎月2~3回ありますが、学生は最低5回、参加するということになっています。内容は、田植え体験や山登り、トンボの里公園の整備などいろいろな活動があり、その中から自分の好きな活動を選んで参加できます。

私がこの社会活動演習を通じて一番感じたことは、子供たちの成長の速さです。春から夏、秋、冬と子どもたちは大きく成長しますが、1回1回の活動においても、活動の初めと終わりで大きな違いがありました。上級生の子が下級生の子に積極的に声をかけて手助けする場面や最初はなれなかった作業も回数を重ねて上達していく姿は、身体的にも精神的にも成長していると感じました。

私は田植え体験にも参加したのですが、田植え後、田んぼの中のミジンコやエビなどの生きもの探しをしたり、その生き物を顕微鏡で観察したりするとき、子どもたちは夢中になっていました。そうした姿を見て、私も失いかけていた好奇心や挑戦心を思い出しました。そして、地域に根差した環境教育の重要性を実感しました。



子どもの自然体験教室をサポートしている様子



# 地域学実習

地域学実習は、3年生の前期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の10プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。

## 2015年度実施プログラム(指導担当教員)

- A: 岐阜の産業遺産調査(神谷 宗明)
- B: 郡上地域における害獣駆除・狩猟についてのフィールド調査(山口 未花子)
- C: 多治見市笠原町の中小企業調査(宇山 翠)
- D: 郡上市の行財政運営に関する調査(西村 貢)
- E: 岐阜市および郡上市における地域振興ボランティア活動への参加を通じた体験型学習(小西 豊)
- F: 岐阜市歴史博物館における史料整理実習(人見 佐知子)
- G: 郡上市和良町への移住民に対する聴き取り調査(林 琢也)
- H: 岐阜圏域の企業や公的機関の職場調査(伊原 亮司)
- I: 郡上市八幡町小那比地区住民への聞き取り調査(山崎 仁朗・高木 和美)
- J: 郡上市におけるIターン・Uターン移住者への聴き取り調査(富樫 幸一)

実習の成果は「地域学実習報告書」にまとめられるだけでなく、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。



垂井宿のまちづくり調査のための打ち合わせ風景



2014年社会調査インターカレッジ発表会の様子

## 学生の声

2012年度入学 洞口 涼さん

地域学実習では、学生がテーマごとにグループに分かれ、それぞれ対象とする地域を訪れます。私のグループでは、郡上のNPO法人である「メタセコイアの森の仲間たち」が主催する子どもキャンプとどろんこバレーボール大会にスタッフとして参加させていただきました。これは、郡上という地域を体験し、知ってもらい、また、魅力を感じてもらい活動です。

都市と農村を比較したとき、経済的な価値の大きさとしては都市が圧倒的に上です。しかし、自然、文化、伝統、人など、農村にしかないものがあります。それを価値として、魅力のあるものとして見出し、まちおこしをしていくのがメタセコイアの森の仲間たちの活動だということを実習を通して学びました。

また、地域学実習を通して、実際に地域に行き、自分の目で見て、考えること、そして、体験することでわからないことがあることを学ぶことができました。



清流王国郡上 夏休み子供キャンプでの実習風景

# 専門セミナー

2年次後期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。各教員それぞれの専門分野について、少人数で開講され、学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の卒業研究まで一貫して行われます。

各専門分野によって、運営形式は様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を通して、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多種多様にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

## 新井田智幸セミナー（経済学）

現代日本では、景気を良くし、下がり続けている賃金をどう反転させていくか、高齢化社会を支える社会保障制度をどう持続可能なものにしていけばいいか、格差や貧困の問題にどう対処すればいいのかといったような、重大な課題が山積しています。

私のセミナーでは、こうした経済政策や社会政策に関わる課題について、各自が関心のある分野を掘り下げて、勉強することをテーマにしています。その際、表面的な政策論争を追うだけでは十分にその本質を理解できません。現実にとられている政策や、歴史的にとられてきた政策には、それぞれの政策を支える経済理論や経済思想が潜んでいます。そうした思想的な部分まで目を配り、そのレベルでの対立軸を理解した上で、政策を検討することを重視しています。最終的に一つの卒業論文を書きとおすことで、社会の動きを見る目を養う力を身に付ける、有意義な学生生活になるものと期待しています。



## 向井貴彦セミナー（保全遺伝学）

私たちの暮らす岐阜県や愛知県、三重県などは、豊かな自然に恵まれた地域であり、さまざまな動植物を身近に見ることができます。しかし、現実には、この数十年の間に身近な環境が次々とコンクリートで固められ、国内外から大量の“外来種”が持ち込まれて放流されることで、昔からいた多くの生き物が“絶滅危惧種”になっており、その一方で、もともとこの地域にいなかった外来種が増え続けています。その変化は急激で、この地域の本来の自然が十分に記録されないうちに多くのものが失われてしまいました。

そこで、このセミナーでは、地域の自然の姿を明らかにする「生物地理学」と呼ばれる分野の研究や、絶滅危惧種の保全についての研究、外来種の現状と対策についての研究などをテーマにしています。ゼミに所属した学生には、早めに研究テーマを決めて積極的に学んでもらい、野外調査やDNA解析などの技術を使って、身近な自然環境の保全に貢献できる研究を進めています。



## 柴田和宏セミナー（哲学史）

私の研究対象は16、17世紀頃の西欧の自然哲学、とくに当時の物質や生命に関する哲学です。今はおもにフランシス・ベーコンという哲学者に注目して研究を進めています。

現在から見れば非常に原始的な観察・実験器具しか存在しなかったような時代ですが(またそもそも、観察や実験が世界を理解するための適切な手段であるかどうかということ自体が一つの争点だったのですが)、哲学者たちは過去や同時代の諸学説や、当時なりのさまざまな経験的証拠にもとづいて、物質の成り立ちや生命現象をいろいろな仕方でも説明しようとしていました。さらに、哲学上の理論は当時の政治や宗教、社会のあり方にも少なからず影響を受けていました。

こうした複雑な背景のもとにどのようにして当時の自然哲学が生まれ、変化していったのかという歴史的過程を解明することが、私の研究の目的です。



## 土岐邦彦セミナー（発達心理学）

「障がいのある子ども・若者たちのゆたかな発達を保障するために」。本セミナーでは、発足当初からこの理念を掲げ、障がいのある人たちの生活実態をふまえ、当事者や家族のねがいによりそうことを大切にしてきました。そのために、飛騨高山で組織されている「障がい者の会」に協力を仰ぎながら、子どもたちへの発達診断活動とレクリエーション(キャンプやスキー)を実施し、濃密な関係を作ってきました。この活動を15年以上継続する中で、今では子どもたちや家族の皆さんの生活の重要なイベントとして位置づけられるようになり、毎年期待していただけるまでになりました。学生たちにとっても、生身のふれあいをとおして、対象となる人たちの発達の变化を実感できる機会となっているようです。こうした体験をふまえ、学生たちはそれぞれの問題意識を明瞭にさせながら、障がいのある人たちが生活する場に参加し、オリジナルな資料を収集して卒業研究へと結実させています。



## 学生の声

2012年度入学 井手 崇裕さん

地域科学部では、自分が学びたい分野の科目は文科系、理科系関係なく、また所属する専門セミナーに関係なく履修することが可能です。様々な分野を学ぶことで物事を多角的かつ複眼的に見ることの面白さを体得できます。さらに自分自身が一番興味のある分野を実際に学ぶことで発見できるという利点があります。



私は2年後期から三井栄先生の近代経済学セミナーに所属し、3年前期までに現代経済学の基礎であるミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を学びました。私の研究アプローチはExcelを用いて客観的なデータ分析をして経済分析を行っています。これは社会現象やアンケートの分析などにも応用が可能です。また、3年後期は私が関心を持っていた「まちづくりの成功」の定義についての論文を作成しました。

まちづくりを考えるうえでも、経済的な視点やその分析手法だけでなく、これまでに地域科学部で学んだ他の分野の蓄積は活かされています。広い視野から研究を行うことができるのは、この学部の大きな強みです。

## 学生の声

2013年度入学 高 永新さん

私は、牧秀樹研究室で言語学を探究しています。「言語学」と聞いたら、何語が最も難しいかなどを勉強すると想像するかもしれませんが、牧研究室では、言語の難易を判断しません。そうではなくて、世界中の言語がどのような構造をしているか、更には、言語と言語の間にどのような関連があるのかを調査しています。英語や日本語はもちろん、興味があれば、各自の母国語を研究しても良いです。例えば、中国語、モンゴル語、韓国語等についての研究も行われています。



留学生の私は、将来、就職する時にも、また、生活のためにも「技」を身に付ける必要があります。その第一は、他人に自分の考えをうまく伝えることで、「話す能力」が重要な「技」だと思います。その一環として、私は、昨年山梨大学で行われた中部地区英語教育学会において、英語で口頭発表をしました。このようなことを通して、パワーポイントを扱う能力や、聴衆の前で話す能力を高める訓練をしています。

# 地域科学研究科

## Admission Policy

### アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

#### ■教育理念・目標

深い専門性と実践的で創造性豊かな政策的能力を有し、持続可能な地域社会の形成に寄与できる人材、社会と人間のあり方に関する深い知見を有し、新たな地域社会の基盤の形成に寄与する人材の育成が本研究科の教育目標です。この目標のために「地域政策専攻」は、経済・行政・自然環境の諸学問分野を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型地域社会について専門的に掘り下げることのできる人材の育成を目指します。「地域文化専攻」は、社会生活や人間文化に関する諸学問を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に掘り下げることのできる人材の育成を目指します。

#### ■求める学生像

新しい社会生活・生活環境のあり方を探究して問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲を持つ人、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追求しようとする人を望んでいます。

- ・自治体の政策立案担当・商工会議所等団体の政策担当で活躍しようとしている人
- ・地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・福祉団体の専門職員や自治体等の文化政策担当者として活躍しようとしている人
- ・町づくり等の地域活動組織者として活躍しようとしている人
- ・さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

## Curriculum Policy

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

経済学・行政学・法学・自然科学などの諸学問分野を中心に広く学びながら自然環境と調和した地域社会について専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。また、社会生活と人間文化の諸学問分野を中心に、社会と人間について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。

## Diploma Policy

### ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得し、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を把握し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より高い専門的能力を持つ者を育成し、社会に貢献します。

※抜粋(全文は本学部HPをご覧ください)

# 専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましよう。



地域科学  
研究科

## 地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

### ● 経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

### ● 行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

### ● 自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

## 地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

### ● 社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしなが、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

### ● 人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしなが、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。

# カリキュラムの概要

- **特別演習 I・II・III・IV**：指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究**：指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **共通専門科目**：地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目**：各教育研究領域ごとに4～14の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜経済大学)の単位も認められます。

## 授業科目一覧

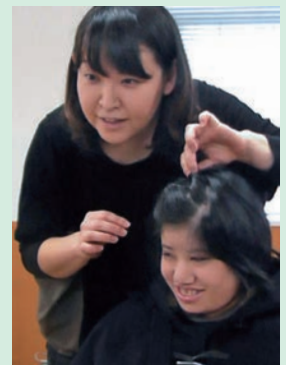
専攻	地 域 政 策			地 域 文 化		
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化	
共通専門科目	社会資本論特論 地域産業特論	行政法特論 地方財政論特論	環境物理学特論 環境心理学特論	地域社会学特論 社会福祉論特論	価値哲学特論 心理学特論	
自由選択科目	理論経済学特論 計量経済学特論 比較経済体制論特論 経済地理学特論	憲法特論 社会政策特論 民法特論 行政学特論	保全生態学特論 応用生態特論 数理システム特論 数理化学特論 環境計算化学特論 都市環境工学特論	労働社会学特論 歴史学特論 現代史特論 地域福祉論特論 メディア論特論 社会人類学特論 生活指導論特論 文化人類学特論	日本思想史特論 生命倫理学特論 自然哲学特論 健康教育学特論 日本近代文学特論 表象文化論特論 英語圏文学特論	文化解釈論特論 言語文化論特論 言語教育学特論 ドイツ文学特論 社会言語学特論 中国文学特論 中国語学特論
地域科学特別講義 I・II・III・IV・V・VI						
特別演習 I・II・III・IV			特別研究			

## 学生の声

2014年度入学 河村 あゆみさん

私は美容師を20年続けています。以前は、おしゃれを自由に楽しむ環境は誰にでもあると思っていました。ところが、障がいのあるお客様とかかわったことで、おしゃれやヘアメイクから遠ざかっている人(遠ざけられている人)がいることに気が付きました。そこで、障がいのある人の思いやねがいをふまえて「おしゃれやヘアメイクが障がいのある若者たちの発達にどのような影響があるか」という問題意識をもって大学院に入学しました。

研究室では発達心理学を基礎から学んでいます。そして、学内にとどまらず障がいのある人たちが地域で行っている様々な活動にも参加しています。「メイク教室」を企画したり、インタビュー調査を行うことで、たとえ障がいがあっても「きれいになりたい、かっこよくなりたい」というねがいは共通であることを実感しています。障がいのある若者たちの発達していく姿を身近で感じながら、修士論文の完成に向けて奮闘したいと思っています。



## 進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、下記の通りです。

- (1) 公務員になる学生の割合が高い(2015年3月卒業生では、全就職決定者102名のうち22名(21.6%)に上った)。
- (2) 首都圏・関西圏の企業に就職する学生は少なく、大多数が地元企業に就職している。
- (3) 金融・保険業に就職する学生も多いものの、卸・小売業や製造業をはじめ、その他の業種にも満遍なく就職しており、現在は多様な業種への就職が定着している。

卒業生達が様々な業種に進む傾向にあることは、全国的にも数少ない総合・学際学部である本学部が目標としている学生教育の一つの成果であると言えます。その目標とは、人文的、社会的、自然科学的など多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的にとらえることができる人材を育てることです。

また、他大学と比較してみると、地域科学部の就職状況は極めて良好です。全国的な就職不況の時期でも85%以上の就職内定率(就職希望者における決定者の割合)を維持し、2015年3月卒業生では96.2%となっています(2011年~2015年の過去5年間を平均すると、卒業時の就職内定率は平均で94.6%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、次の5つの要因があります。(1) 本学部の学生自身が熱意を持って就職活動に取り組んでいること、(2) そうした学生の熱意や活動をサポートするために、指導教員だけでなく、学部内に4名の就職担当教員を配置し、学生からの相談に迅速に対応していること、(3) 大学全体の就職ガイダンスとは別に、学部独自の就職ガイダンスを実施していること、(4) 数年に一度、学生が就職した主な企業に教員が直接出向き、学生の仕事ぶりや採用状況を担当者の方から伺っていること、(5) 就職後の学生からの相談(転職や仕事上の悩みなど)に対応していること。

今後も、総合的に地域の諸課題が考えられる人材を育成し、自治体・企業・諸団体の期待に応えて参ります。

## OB・OGの声

2000年度卒業 武分 祥子さん



### 飯田女子短期大学 教授

今から思えば、地域科学部入学は私の人生の歩みにおいて大きな転機となりました。それまでの世界を広げ、将来を切り開いた入学から15年間を振り返りたいと思います。

**<入学から4年間>** 私は地域科学部第1期生として社会人枠で入学しました。当時は岐阜市内の病院で看護師として勤務していたのですが、大学に行きたかった思いを叶えること、看護師業務で痛感した患者さんの社会復帰への支援方法を学びたいと考え、5年間の勤務に終止符を打ちました。地域科学部の4年間では、学際的な領域の先生、学生、留学生との出会いはもちろん、現代社会について幅広く考える基盤を構築できました。看護の世界しか知らなかった私の視野は格段に広がり、個人の生活と社会のつながりの重要性を知りました。そして指導教員の導きにより、さらに大学院に進む決意をしました。

**<大学院での5年間>** 進学した立命館大学大学院社会学研究科では、私の問題意識を研究課題として取り組むことになりました。院生生活ではさらに様々な先生や院生仲間(留学生も)に刺激を受け、海外にも研究課題は拡大し、貴重な経験を重ねました。紆余曲折の5年間でしたが、多くの方々に助けていただき博士学位論文を提出し大学院を修了することができました。

**<短大教員として勤務してから>** 現在は飯田女子短期大学看護学科に勤務し10年目を迎え、看護学領域や社会学領域の研究・教育に取り組んでいます。この15年間で得た私の最大の財産は人との出会いとつながりです。これまで教えてくれた多くの方々の恩を、今度は学生たちに還元できるよう、自分を磨き尽力していきたいと思っています。

# 学部進路

## 2015年3月卒業生進路状況

(2015年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

### 公務員(22)

経済産業省 安城市役所  
国土交通省(2) 稲沢市役所  
財務省 犬山市役所  
岐阜県庁(4) 大府市役所  
愛知県庁(2) 可児市役所  
岐阜県警察(2) 福井市役所  
愛知県警(3)  
岐阜県市町村立小中学校事務

### 建設・製造業(12)

FD 三栄水栓製作所  
ジェイアール東海コンサルタンツ 竹内工業  
岡鈴 デンソー  
藤榮 太平洋工業  
サンメッセ  
三甲  
ロピア  
日本ウエストン

### 運輸・情報・通信業(10)

アイガ  
エヌ・ティ・ティ マーケティングアクト  
コミュニティネットワークセンター  
シーシーエヌ  
テクノア  
トランスコスモス  
ビズリーチ  
三菱電機ビジネスシステム  
中電シーティーアイ  
豊田ハイシステム

### 金融・保険業(12)

関信用金庫  
西濃信用金庫  
大垣共立銀行(2)  
日本政策金融公庫  
八幡信用金庫  
名古屋銀行  
ウェルビーマーケティングジャパン  
三井住友海上火災保険  
住友生命保険相互会社  
東京海上日動火災保険  
明治安田生命保険相互会社

### 卸・小売業(17)

アルフレッサ日建産業 ドミー  
サングリーン ドン・キホーテ  
マルエム商会 井上精機  
モリマツ 生活協同組合コープ岐阜  
赤塚植物園 平和堂  
中部化成薬品 八神製作所  
富士ゼロックス岐阜  
豊通鉄鋼販売  
イオンペット  
イオンリテール  
コープあいち

### サービス業(11)

栄邦技研  
公益社団法人岐阜県都市整備協会  
自営  
名南経営コンサルティング  
Beans Bitou  
JTBワールドバケーションズ  
JTB中部  
名鉄観光サービス  
アテナ  
ナショナルメンテナンス  
トーカイ

### 医療・福祉・教育業(7)

岐阜県総合医療センター(2)  
社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院  
日本赤十字社岐阜県支部  
ナンブ  
国立大学法人岐阜大学  
わ

### 複合サービス業(6)

ぎふ農業協同組合  
岐阜県農業協同組合中央会  
西美濃農業協同組合  
東美濃農業協同組合  
日本郵便(2)

### 不動産・物品賃貸業(5)

アップウィッシュ  
総合鑑定調査  
中村不動産  
レンタリース東海  
レンテック大敏

### 進学(5)

岐阜大学大学院地域科学研究科(2)  
名古屋大学大学院国際言語文化研究科  
名古屋大学大学院国際開発研究科  
中央大学大学院商学研究科

卒業生数

117名

就職希望者数

106名

就職決定者数

102名

進学者数

5名

進路未定者数

6名

その他

4名

就職内定率※1

96.22%

就職率※2

87.17%

※1 就職決定者数÷就職希望者数  
※2 就職決定者数÷卒業生数

## OB・OGの声

2013年度卒業 **ン アイメイさん**



### 株式会社 エイチ・アイ・エス

私は現在エイチ・アイ・エス旅行会社で働いています。旅行会社で働きたかったので、就職活動をする時に業種を絞ってやりました。日本の就職活動は海外と少し違い、文系では専門とは関係なく一般企業に就職できるので、大学では自分の勉強したいことができます。

マレーシア出身の私は子供の時からマレー語、英語、中国語の教育を受けてきました。これらは私にとっては全く違う言語でした。牧秀樹研究室に所属し、英語を中心に言語の構造と言語の習得について勉強しました。不思議なことに、この世にある異なる言語は共通点が多く、実は同じもとから発生したように思えます。卒業論文ではマレー語の疑問文の研究結果を発表しましたが、調査過程では様々なことを試行錯誤し、視野も広がりました。

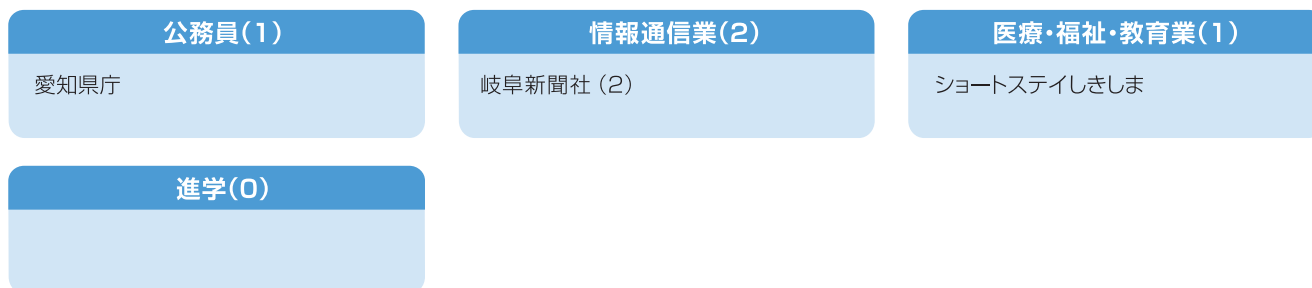
地域科学部では様々な分野があり、また絞って専門的な研究もできる学部です。大学で学んだことは社会に出てこれからの人生でもずっと役に立つものです。自分の興味のあることを沢山学んでいけばいいと思います。



# 研究科進路

## 2015年3月修了生進路状況

(2015年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)



修了生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他※3	就職内定率※1	就職率※2
16名	7名	4名	0名	3名	9名	57.14%	25%

※1 就職決定者数÷就職希望者数  
 ※2 就職決定者数÷卒業生数  
 ※3 社会人修了生を含む

進学・就職

## OB・OGの声

2003年度修了 森川 俊策さん



### 社会保険労務士・森川相談事務所

漠然と環境問題について学びたいという思いから、学部と大学院において、粕谷志郎教授指導の下、「スルメイカに寄生するアニサキス(寄生虫)の減少原因」や「ビスフェノールA(有機化合物)のマウスへの周産期暴露がアレルギーに及ぼす影響」について研究をしてきました。大学院修了後は、会社員として人事、経理、営業と様々な経験を積み、現在は社会保険労務士として独立開業しています。

大学生、大学院生時代の研究とは全く関係のない道に進んでいますが、仕事への取り組み方などは大学院で培ったものが役立っています。学業でも仕事でも①問題の認識②原因の調査・分析③解決策の立案④解決策の実行⑤結果の評価—という問題解決の基本手順は同じだと思います。具体的に噛み砕けば、現在の仕事では、①利益率の悪化②支出費目等経費分析、売上構成、売上額などを分析③残業代の支払いが多く、労務費率、労働分配率に問題④人員の整理、賃金体系の見直し等を実施⑤結果のフィードバック—という流れです。内容は全く異なりますが、踏む手順は同様でありますので、自分の中にどれだけその分野についての知識や経験を蓄積できているかが問題解決の肝となるのではないのでしょうか。

研究と異なる分野を生業としておりますが、研究してきたことは何一つ無駄にはならず役に立てることができております。学生時代に貴重な経験を与えていただいた粕谷教授はじめ、地域科学部、地域科学研究科の先生方に感謝しております。

## OB・OGの声

2010年度修了 長谷部 めぐみさん



### 信州大学全学共通機構 非常勤講師

私は、地域科学研究科の牧秀樹研究室に所属し、統語論および第二言語習得論を学びました。在籍中は、主に英語の文法規則に関する研究と、日本人の英語習得に関する研究を行っていました。文化系の研究室と聞くと、机に向かい文献を手にすることが多いイメージがありますが、牧研究室では、「調査の題材を見つけ、データを集め、それを分析し、結果を学術会議で発表する」ことが中心でした。大学の研究費助成を受け、調査のためにアメリカのウエストバージニア大学に行ったことや、研究者が集まる国際会議でプレゼンテーションをしたことによって、多くの人々から得た知識は、文献からは学ぶことのできなかったものだと思います。

修士課程修了後は、横浜国立大学の博士課程に進学し、2014年3月に博士号を取得しました。現在は、信州大学と日本福祉大学で、非常勤講師として英語の授業を担当しています。岐阜大学で先生や学友に恵まれ有意義な時間が過ごせたことを忘れず、これからも大学で働いていきたいと思っています。

# 地域科学部の活動と成果

## 地域資料・情報センター

URL <http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/>

当センターでは、毎年のニュースレター、教育学部郷土博物館所蔵資料目録の発行の他、ウェブサイト上には、県内で発刊されたり、寄贈していただいたりした資料をご紹介します。最近のものでは、聞き書き集「石徹白の人々Ⅱ」(石徹白公民館聞き書きの会)、「神輿大好き:岐阜のまちに神輿が復活するまで」(伊藤泰雄著)などです。その他に岐阜のトピックスを多方面にわたって紹介しています。また、長良川河口堰が完成してちょうど20年となりますが、裁判資料等を順次PDF化して公開しており、また新たに新聞スクラップ・写真などの資料をお預かりしています。

Facebookでの情報発信も始めましたので、ぜひご覧ください。

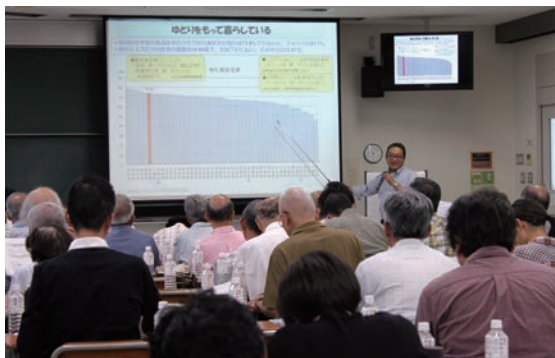


寄贈を受けた水関連のスクラップ



長良川河口堰に関する資料の一部

## 岐阜大学公開講座(地域科学部企画)



地域科学部では、毎年、公開講座を開催しています。2014年度は、『岐阜の「地域再生」を考える』をテーマに、二度開かれました(岐阜大学校舎、郡上高等学校)。過疎・高齢化、格差拡大、環境破壊など岐阜の抱える問題について、各講師がそれぞれの研究分野に関する興味深い講義を展開し、受講生の方々に大変好評でした。

2015年のテーマは、『地域における「共生」を考える』。9月26(土)・27日(日)には岐阜大学地域科学部の教室で、10月には郡上高等学校で、開催予定です。地域における様々なレベルでの「共生」を例にとり、「共に生きること」の本質について、参加された受講生の方々と一緒に考えていきます。さまざまな専門分野から興味深い話が展開されるはずです。なお、2014年度より公開講座を無料化し、従来以上に参加しやすいものとなりました。大学での講義をイメージしたい方も、是非、お気軽にご参加ください。

## 岐阜経済大学・岐阜市立女子短期大学と地域科学部との連携事業

2014年度の「高校生のための街なかオープンカレッジ」は、恒例の8月の柳ヶ瀬とともに、10月19日は東美濃で初めて開催しました。中津川にキャンパスのある中京学院大学、恵那高校、中津高校、中津商業高校、中京商業高校、そして中津川市・恵那市の両市とも連携して実施されました。午前には、三井栄先生のミニ講義「キャリアデザインと地域づくり」、学生と高校生、高校の先輩でもある先生方や市の職員さんたちを交えたトーク、午後には中津川宿のフィールドワークで、歴史資料館や、特産の「栗きんとん」のお店でもお話をうかがいました。

(2015年は恵那市岩村に、明知鉄道を借り切って行きます。)



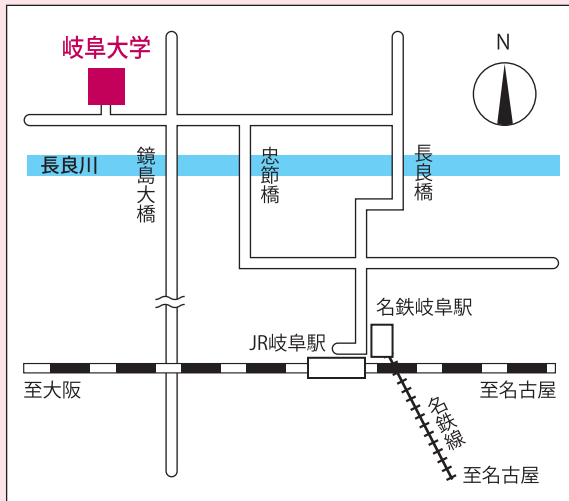
岐阜市立女子短期大学との連携事業

# 教員一覧

(2015年7月1日現在)

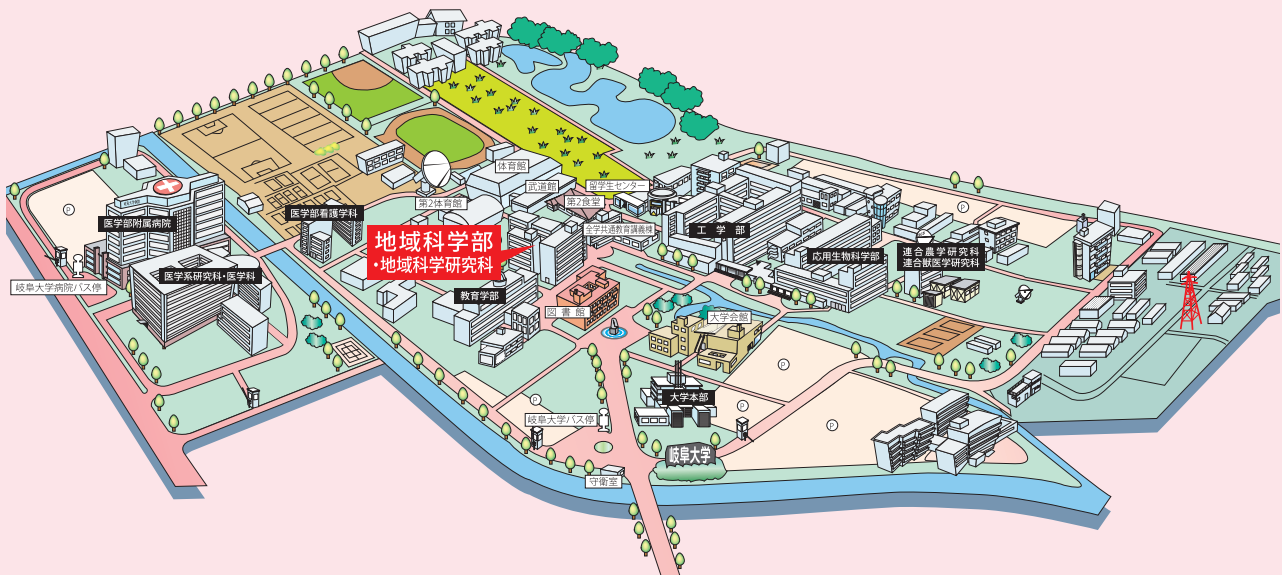
学科	講座	職位	教員名(専門分野)	研究内容のキーワード		
地域政策	地域政策	教授	近藤 真(憲法学)	憲法、社会的権力と人権、教育問題、環境保護、ニュージーランド、ドイツ憲法		
			西村 貢(財政学)	地域開発と財政構造、財政思想、社会システム		
			宮野 雄一(地域経済学)	国土計画、地域開発、社会資本、水資源、環境経済学		
			富樫 幸一(経済地理学)	人文地理学、地域経済の分析、産業調査、まちづくり		
			三井 栄(計量経済学)	計量経済分析、時系列分析、数理ファイナンス、経済シミュレーション		
		准教授	三谷 晋(行政法)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟、地方自治		
			山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性		
			立石 直子(民法学)	家族生活と法、子どもの人権、ジェンダー法、法と心理の協働		
		講師	林 琢也(経済地理学)	農村観光、都市農業、メディアと観光、地域リーダー、合意形成、知的財産権		
			小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR		
	助教	柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化			
		新井田智幸(経済学)	経済政策、労働経済学、福祉国家、経済思想、制度派経済学			
		宇山 翠(経済学)	産業集積、中小企業、産業発展、企業間関係、下請、地域			
		地域環境	教授	肥後 睦輝(森林生態学)	環境保全、里山、湿地、多様性	
				和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィックス、化学反応制御、溶液内の化学反応	
	准教授		應 江黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関わる経済問題		
			合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価		
			向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析		
	助教	橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応			
		神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学			
地域文化	地域文化	教授	十二村住樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS		
			中塚 温(統計物理学)	量子モンテカルロ法、自由エネルギー、相対論効果		
			地域文化	教授	中川 一雄(英米文学)	表象文化論、近世英詩、現代アメリカ小説、フォルマリズム
					竹内 章郎(社会哲学)	現代平等論、弱者、ウエルファ、生命倫理、能力主義、正義と善、階級
					林 正子(日本近代文学)	日本近現代小説・文明評論、ドイツ思想文化受容、日本近代女性文学、風土と文学
					松尾 幸忠(中国古典文学)	中国文化論、詩跡(歌賦)研究
					稲生 勝(科学哲学)	環境問題、科学・技術と社会の関係、自然観、ヘーゲル、歴史における自然科学
					内海 智仁(アイルランド文学)	小説論、アイルランド、モダニズム
					内田 勝(18世紀英文学)	文化研究、ポップカルチャー、文化史、日常の中の物語
					洞澤 伸(社会言語科学)	コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会
	橋本永貞子(現代中国語学)	日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能				
	准教授	ゲラン,ジル(フランス語)			フランス語	
		フランクシュタイン,アレクサンドラ(ドイツ語)	ドイツ語			
		牧 秀樹(言語学)	生成文法			
		笠井 千勢(英語教育学)	第二言語習得論			
	助教	柴田 和宏(哲学史)	西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史			
		土岐 邦彦(発達心理学)	人間発達、障害、コミュニケーション、教育、福祉、ケーススタディ			
	地域構造	教授	近藤 眞庸(健康教育論)	健康教育、人間の性と生と死の教育、いのちと人権の教育		
			高木 和美(社会福祉学)	生活問題、社会福祉、地域福祉、社会保障、医療政策、看護・介護職員政策		
			ラッセル,ジョン・ゴードン(文化人類学)	内なる多様性、創造、想像、鏡としての他者、ボーダレス社会、異文化交流		
山崎 仁朗(地域社会学)			システムと生活世界、公共性、地域自治、地域社会、住民組織の国際比較			
野原 仁(ジャーナリズム論)			メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現			
准教授		伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力			
		南出 吉祥(生活指導論)	教育-福祉-労働、若者の自立、居場所、支援、貧困			
		講師	加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会		
助教		人見佐知子(日本近代史)	日本近世・近現代の歴史、地域史、オーラルヒストリー、ジェンダー史			
		山口未花子(人類学)	人と動物、先住民研究、狩猟採集社会、被災地の生業と祭り、世界観			

# Information



## ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、  
JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9番のりばから  
岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分  
(JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、  
5番のりば及びバスターミナルEのりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分



お問合せ先

## 岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3009(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~forest/>